

Now that 節の意味と接続機能*

大 竹 芳 夫

0. はじめに

時間関係に基づく接続機能を果たす副詞節が、因果関係の接続機能を派生的に生ずる言語現象が認められる。例えば、Traugott and König(1991)は(1)の例を挙げて英語の接続詞 *since* の多義性を論じている。

- (1) a. I have done quite a bit of writing *since we last met*.
b. *Since Susan left him*, John has been very miserable.
c. *Since you are not coming with me*, I will have to go alone.

(1a)では *since* が導く節は「時」の解釈を、(1c)では「理由」の解釈を受けることは明らかであるが、(1b)では「スーザンが去ってから、ジョンはとても惨めになった」という意味が得られ「時／理由」の解釈で曖昧である。¹こうした言語事象に対して、Traugott and König(1991)は文法化の考え方を適用し、意味概念の連続的な派生過程、つまり「時」→「時／理由」→「理由」のプロセスを仮定することにより *since* の多様な意味・用法を捉えている。

さて、*since* と同様に時を表す接続詞に導かれる接続表現でありながら、多様な意味関係を具現化する言語形式に *now that* 節がある。*Now that* 節は(2a-c)の如く文頭、文中、文末の各位置に生ずる。²

- (2) a. *Now that I have the chance* I feel very lucky.
(*The Boston Globe*, April 15, 1999)
b. Isn't it too easy, *now that the government has changed*, to suddenly become a democrat? (*TIME*, June 8, 1998)
c. I am unsure what to do *now that the flower has died*.
(*Reader's Digest*, March 1999)

Now that 節の意味は多様であるが、(2a)は「機会に恵まれ、とても幸運だ」、(2b)は「政変があったからといって、急に民主主義に宗旨変えするのは安易

すぎないか?」、(2c)は「花が枯れてしまった今、どうしたらいいかわからない」といった意味である。Traugott and König(1991)は接続詞 now についても考察しているが、now の意味をもつ古英語 nu が専ら「理由」を表す接続詞として用いられたこと、今日でも接続詞 now は「理由」の意味を会話の含意から推論させることを論ずるに留まり、本研究で明らかにされる多様な意味・用法を踏まえて now that 節の特性を分析していない点で不十分である。また、Quirk *et al.* (1985)は now that 節と主節の状況間の同時性に着目し、時間の意味と「理由」や「状況」の意味とを結び付ける機能を now that 節に認めている。しかしながら、「理由」は後に見るように now that 節が表す具体的意味の一つに過ぎないし、Quirk *et al.* が述べる「状況」の意味概念は極めて包括的でありさらに詳しい分析が可能である。³

本研究では、now that 節が表現する具体的な意味関係を実証的に明らかにしながら、その基本的意味・機能を考察する。まず、now that 節が「原因・理由」「状況」といった従来指摘されてきた意味以外にも、譲歩、条件等の多様な意味を表すことを示す。次いで、now that 節の基本的意味が話題中の現時点の状況を既定情報として提出すること、主節はその状況を基点情報として自動的に成立する命題情報を担うことを検証する。さらに、実際の談話で生ずる now that 節の語用論的特性についても分析する。

1. Now that 節が表す意味関係

1. 1. 従来 of 記述

Now that 節の基本的特性を明らかにするために、文脈や場面的状況における具体的な意味を考察する必要がある。まず、now that 節の意味・用法に関して、「原因・理由」といった意味を挙げる従来 of 語法文法書や学習英英辞典がある。Eastwood(1994)は now that 節を「理由節 (clauses of reason)」と分類し、OALD⁵ は「特定の事柄が生じている、あるいは生じたばかりだから (because the specified thing is happening or has just happened)」という定義を与え原因・理由の意味関係のみを示している。

(3) a. *Now (that) I've finished the course, I have to look for a job.*

(Eastwood 1994)

b. *Now you've passed your test you can drive on your own.* (OALD⁵)

Leech(1989)は because 節の書き換えを now that 節に与え、「理由と時の意味を併せもつ (mixing the meaning of time and reason)」と述べている。

(4) Let's have a drink, *now (that) you're here.*

(='because you are now here')

(Leech 1989)

しかしながら、now that 節は、because/since 節で書き換えることができるような「原因・理由」の意味関係のみを表現するものではないし、後に論ずるように now that 節と because/since 節には基本的特性の相違がある。

Quirk *et al.* (1985)はもう少し広い視座にたち、「時」と「理由」の意味を結び付けたり (= (5a))、さらには「時」と「状況 (circumstantial)」の意味を結び付ける (= (5b)) 意味・機能を now that に認めている。

(5) a. We are happy *now that everybody is present.*

b. *Now that they've moved,* we won't see them very often.

(Quirk *et al.* 1985)

Quirk *et al.* (1985)は、now that 節と主節の状況間には「同時性 (simultaneity)」、もしくは少なくとも「時間的重なり (overlap in time)」という時間関係を認めることができ、それを基本にして「理由」や「状況」といった意味が結び付くと記述する。こうした姿勢は、now that 節の表現する多様な意味関係を統一的に説明する方向を目指しているものであり評価できよう。

しかしながら、now that 節は「理由」と並んで、本研究で明らかになるように「譲歩」、「条件」といった実に様々な意味関係を表現しうる接続表現であるし、「状況」の意味はさらに詳しく分析可能な包括的な概念である。そこで、now that 節の表す多様な意味関係を <情報量の多い意味関係> と <情報量の少ない意味関係> に便宜的に分けて明らかにしたうえで、その基本

的特性を論ずることにする。⁴ 前者には譲歩、条件、理由のような論理的
前提や時間的継起性を積極的に表現する意味関係が、後者には付帯的状況、
背後の事情、具体化、例示といった意味関係が含まれる。

1. 2. Now that 節が担う命題情報の既定性

Now that 節が表現する具体的な意味関係を順次みてゆく前に、now that
節が担う命題情報の特性を確認しておこう。第一に、now that 節は話題中
の現時点ですでに情報として確定済みの命題内容、つまり既定情報を担う。
そのため、情報として未確定な命題を now that 節は表現できない。

(6) *Now that he {*would/??may/??might/??should} have finished the
course, he has to look for a job.*

(6)は、話し手の推定判断を表す法助動詞が now that 節で用いられ、発話
に先立ってまだ成立していない命題内容を表現するため不適格となる。
Alexander(1988)は、now that 節は現在完了形をとることが多いと指摘す
るが、これは完了相が確定済みの事実を表す形式であるためである。ただ
し、now that 節は情報として確定済みの命題内容を表現することが基本で
あり、話題中の現時点で真実として確定済みの事柄を述べる必要はない。
次の now that 節は事実としては未定の未来の事柄を表すが、話題中の現時
点で計画や予定といった情報として既に成立している命題を担っている。

(7) a. Yet this raffish scapegrace, *now that he's about to receive
the lifetime achievement award of a bus pass, is metamor-
phosing into an old codger.* (*The Observer*, June 13, 1999)
b. *Now that you're going to live, I don't want you to die from
cirrhosis.* (E. Segal, *Prizes*)

また、伝聞証拠により成立する情報を now that 節が表現する場合がある。

(8) According to some of our most popular news media, however, *now that I was a millionaire*, the meaning of that measuring stick was rather different. Worth was now about money.

(NEWSWEEK, Sep. 22, 1997)

(8)では、話題中の現時点において「私は億万長者である」ことは、その真偽は別にして、「数社の大衆新聞」に依拠すれば情報として確定済みであることを表現している。Now that 節はこのように命題内容の真偽とは無関係に、発話に先立って文脈や場面的状況からすでに確定している情報、つまり既定情報を表現する。換言すれば、話し手は now that 節の状況が既定情報であることを積極的に示しながら、主節の状況が成立する、あるいは成立していることを主張する。結果的に、now that 節の状況は情報として話し手の知識に十分に取り込まれていることを表現するため、主節の状況と同時瞬間的に認識される状況を表現することは適当でない。

- (9) a. **Now that he puts on his glasses*, he begins to read it.
b. **Now that she took a deep breath*, she screamed.

(9)は前件・後件が一体となって瞬間的に連続する動作を表すものと認識されるにも関わらず、前件だけが既定として情報処理されており不自然である。

1. 3. 情報量の多い意味関係を表現する now that 節

既定情報を表現する now that 節はしばしば前提としての機能を果たすため、従来から指摘される原因・理由以外にも様々な意味関係を実現する。

第一に、now that 節が「譲歩」「対立」の意味解釈を受ける場合がある。

- (10) a. Fine, but if Fuji isn't waging a price war, why are its prices still hanging low *now that the excess inventory has been worked off?* (FORTUNE, Oct. 27, 1997)

- b. Even *now that the market's regained its July losses*, Stephens

isn't altering his course.

(*FORTUNE*, Sep. 30, 1996)

(10a)は *now that* 節が主節の *still* と呼応し「過剰在庫がはけたのに、依然として(...)」、(10b)は *even* が冠せられて「市場が7月の損失を取り戻したのに(...)」と解釈される。いずれも *now that* 節の確定した情報を前提として判断すれば、得られるはずの状況が成立せずに主節の予想外の状況が成立していることを伝達している。こうした逆接の意味関係も原因・理由と同様に、*now that* 節の情報を前提的に捉えている点は共通である。

次に、*now that* 節の接続機能の広さをよく示す意味関係として、「今一度考えると、思い起こせば」といった「条件」の用法を挙げるができる。

- (11) a. *Now that I think about it, maybe I just wrote about the wrong repulsive lawn pest.* (*The Washington Post*, April 18, 1999)
b. *Now that I look back and think about it, I was never a big letter writer.* (*TIME*, Feb. 6, 1995)

(11a-b)の *now that* 節はそれぞれ「今になって考えると」「振り返って今思えば」と、現在の反省や回想を既定情報として表現している。注意すべきことに、*now that* 節が反省や回顧を条件として提示する場合、*now that* 節が現在時制であるにもかかわらず主節が過去時制をとることが多い。手元の資料では12例中11例が *now that* 節に現在時制、主節に過去時制をとっている。こうした現象は、*now that* 節と主節の状況の同時性を主張する Quirk *et al.* (1985)においては取り上げられていない。この用法において *now that* 節の主節が時制の一致を適用されず過去時制をとりやすいという事実は、次のように理解されよう。つまり、*now that* 節では反省や回顧という思考活動がすでに十分に行われており情報として成立していることを示している。その十分な反省や回顧を受けて主節で提示される状況は思い返された内容であり、自ずから反省時より以前、つまり過去の事柄となろう。ただし、(11a-b)の主節には話し手の現時の心的態度を示す *maybe*、*never* が現れている。これは、主節の命題内容自体は過去の事柄であり過去時制を

とるが、反省・回顧という現在時の思考活動に基づいて提示される内容であることをマークするものである。

これまで見てきた原因・理由、譲歩、条件といった意味関係では、現時点で成立する情報が前提的に捉えられている。裏を返せば、「帰結・結果」の意味は前提となり得ないため *now that* 節で表現することはできない。

(12) *Tom is married, *now that he has become much more responsible.*

しかし、*now that* 節の本務は論理的前提の提出ではない。次のように、*now that* 節は時の流れの上で基点となる時の状況を表現する節として働く。

(13) a. *Now that things have cooled down, the world can start viewing the situation more realistically.* (*TIME*, Aug. 17, 1998)

b. *Now that you've solved your year 2000 problems, start worrying about everyone else's.* (*FORTUNE*, Nov. 23, 1998)

(13)の主節には、変化の開始や進展を表す起動動詞 (*inchoative verb*) が現れ、*now that* 節の状況との継起関係が表現されている。次例では現時点の状況の成立を受けて、どのような状況が成立するかを問うている。

(14) a. *Now that she's gone, are her sons next?* (*NEWSWEEK*, Sep. 15, 1997)

b. *Now that the Internet's changed everything, what's next?* (*FORTUNE*, Feb. 19, 1996)

(14)の主節では、*now that* 節の状況に引き続き生ずる事態や次に進む状況が問われており、*now that* 節は発展的、段階的事態の契機や前段となる基点時の状況を表現している。次例の主節では、現時点の状況がある行為の好機であることが主張されている。

- (15) *Now that Cavalli-Sforza's mammoth study is finally complete, it's time to start a fresh survey.* (TIME, Jan. 16, 1995)

さらに、次の例においても継起関係を認めることが可能であろう。

- (16) a. *Now that Rachel runs, there are designated viewing checkpoints for the family in Natick, Wellesley, Newton (at the bottom of Heartbreak Hill), Brookline, and Copley Square.*
(The Boston Globe, April 18, 1999)
- b. *Now that I'm pregnant, I realize that I really do want a baby.*
(TIME, March 28, 1994)

(16a)の now that 節は歴史的現在で表されており、「走る」という行為が成立すると必然的に「目標が見える」と、事物の存在が知覚されることを叙述している。(16b)は「身重になった」ことを受けて「本当に子供がほしい」ことが明確に意識にのぼることを表現している。これらの now that 節は、事物の知覚・認識作用が生ずる契機となる情報を提出すると考えられる。

本節では、now that 節が原因・理由のみならず、譲歩、条件といった論理的前提、より基本的には時間的継起性を表現することを実証的に検証した。譲歩や条件、継起性の now that 節は、原因・理由を表す場合に比べて使用頻度は低いかもしれない。しかし、意味の質的観点からは原因・理由と並び積極的な意味関係を表すものである。Now that 節の基本的特性を追究するうえで、次節で示す意味関係と併せて十分に考察すべきである。

1. 4. 情報量の少ない意味関係を表現する now that 節

Quirk *et al.* (1985)は with 構文の如く、主節の状況に対して付帯的、付随的解釈を与える now that 節を「状況の (circumstantial) now that」として言及する。つまり、前節で確認した因果関係や譲歩、条件といった積極的な論理関係や、継起関係ではなく、主節の命題成立の背景や事情、同

時性といった意味関係に言及しているとみてよい。本節では、こうした情報量の少ない意味関係を表現する *now that* 節について実証的に考察する。

まず、*now that* 節が「同時性」の意味関係を示す例について考えよう。

(17) a. *Now that Suharto has fallen, ABRI has fallen with him.*

(*TIME*, Aug. 24, 1998)

b. “And *now that it*[=the crack cocaine market] *has partially dissolved*, a lot of crack-related crimes have, too,” he said.

(*The Boston Globe*, June 22, 1999)

(17a-b)は主節末の *with him*、*too* 及び平行的構文が *now that* 節と主節の状況の同時的・付随的關係を示しており、「スハルトが失脚し、それと同時に ABRI(国軍)も力を失った」「強力コカインの市場が崩壊するにつれて、コカイン絡みの犯罪も減ってきた」と解釈できる。結果的に両者の間に因果関係を認めることも可能であろうが、*now that* 節の表す状況が成立するのと同時的に生じた別個の状況に関連づけて断定することが基本である。

次は、*now that* 節に *especially*、*particularly* といった取り立て表現が冠され、「特定化」「例示」の意味関係を表現する用例である。

(18) a. We can't be too careful, especially *now that the beef business is back to being relatively healthy.* (R. Cook, *Toxin*)

b. Many members see victory at hand, particularly *now that Clinton has suggested the goal is achievable.*

(*TIME*, Nov. 20, 1995)

(18)では主節命題が成立する特定の状況に聞き手の注意が向けられている。

次例では、*now that* 節が先行する *now* を受け、話題中の現時点の状況を具体的に言い換えており、「具体化」の意味関係を表すとみてよい。

(19) And what would they think now—*now that we're no longer paying*

\$2.99 for Revolver but \$450 for a rasping, necrotic George, live in Japan? (FORTUNE, text ed. Jan. 13, 1997)

(19)に対して、now that 節に続く節頭に now が現れる場合がある。

(20) a. *Now that he's running for president, suddenly now he disagrees with what Clinton has done?*

(*The Boston Globe*, June 17, 1999)

b. *And now that it's spreading, now we want gun control. Now we want to start praying.* (*The Boston Globe*, May 22, 1999)

(20)の用例は、接続機能を果たす now that 節の now の現時点という基本的意味が漂白化されたため、主節の節頭で再度 now を提示し「今こそ、今になって」という意味を積極的に表現していると考えられる。

次例の now that 節は、感情や判断が生ずる「背後の事情」、「背景的状况」を示しており、論理的前提や継起性を積極的に表現するものではない。

(21) a. *Now that I'm here, I'm glad you made me come.*

(M. H. Clark, *Let Me Call You Sweetheart*)

b. *Now that I'm back, my five-year-old Lexus seems like a Ferrari Testarossa.* (FORTUNE, Oct. 9, 1995)

(21a)は「ここに来てみて、(...)うれしい」、(21b)は「帰って来てみて、(...)ようだ」と、now that 節の状況を踏まえた感情や判断が示されている。

本節では、now that 節が論理的前提や継起関係の基点時だけでなく、文脈に応じて論理性に乏しい意味関係も表現し得ることを検証した。

2. Now that 節と主節の意味関係

多様な意味関係を表現する now that 節の基本的意味は何であろうか。

Leech(1989)は now that 節に because 節による書き換えを与え、Leech and Svartvik(1994²)は since 節と非常に近い意味をもつと説明している。先に言及したように、Traugott and König(1991)は、since も now もそれが導く節が表す状況と主節が表す状況間の時間関係の意味を基本として、状況間の因果関係の意味が生ずると論じている。さらに、Traugott and König は、接続詞 since や now によって結び付けられる二つの状況が出来事ではなく状態を表す場合には、since/now that 節は原因・理由として解釈されると指摘している。たしかに、since も now も時の意味を基本として因果関係の解釈を派生するが、now that 節が表す原因・理由の意味は条件、譲歩、付帯的状況など多様な意味の中の一つを捉えたものに過ぎないし、状態を表現する now that 節には since 節とは異なる制約が課せられることに注意しなければならない。筆者のインフォーマントは、since/because は(22)-(23)のいずれの節も導くことができるが、now that は(23)の如き状態を表す節を導くことはできないとの判断を示した。

- (22) a. {*Since/Because/Now that*} *Tom is over 12, he must buy full-price air tickets.*
b. {*Since/Because/Now that*} *he's old, he can't move quickly.*
(23) a. {*Since/Because/*Now that*} *Mary is under 14, she can't see it.*
b. {*Since/Because/*Now that*} *he's young, he can try anything he wants.*

(22)-(23)の now that 節はいずれも現時点の状態を表現している。しかし、(22)の状態には以前からの変化や移行を見て取ることができるのとは異なり、(23a-b)の「メアリーはまだ14歳未満である」、「彼は若い」という現在の状態には、以前からの状況変化や移行を読み込むことができない。このように、now that 節は状況変化や推移を読み込めないような現在の状態を表現することはできないが、これは since/because 節には見られない特性である。次例では since も now that も「私が独身である」という状態を表す節を導いているが、両者は異なる含意をもつことに注意されたい。

- (24) a. *Since I am single*, I like living in this small apartment.
b. *Now that I am single*, I like living in this small apartment.

(24a)の *since* 節は単に「未婚」であることを表現する場合にも用いることができるが、(24b)の *now that* 節の表す状況は未婚を含意せず、「(離婚や死別により)今はまた独身なので」といった状況変化の含意をもつ解釈しか得られない。実際の用例を検証すると、状態を表す *now that* 節には状況変化を表す表現が顕現することが多い。

- (25) a. To see if my feelings for the film would be different *now that I'm older and presumably wiser*, I watched it again last week.
(*The Boston Globe*, May 16, 1999)
b. *Now that peace is here again*, we face the task of rebuilding the country.
(*The Guardian*, June 15, 1999)

(25a)では以前からの状況変化を表す比較級、(25b)では同じ状況の再度の成立を表す *again* が生じている。さらに、変移動詞 *go* が「be+過去分詞」の構造に生じて、結果として生じた状態を積極的に表すことも多い。

- (26) *Playing Evita is harder now that apartheid is gone.*
(*The Boston Globe*, March 15, 1999)

こうした *since/because* 節と *now that* 節の意味特性の相違は、因果関係の保証過程が異なることを示唆する。副詞節が原因・理由節となり主節の状況を帰結・結果として導くためには、副詞節の状況が「原因→結果」の方向づけを与えるものとして解釈される必要がある。*Because* は *by cause* が語源であり、*since* は Traugott and König (1991) が考察するように「起点時」の語義から因果関係の起点、つまり原因・理由の意味をもつに至っている。一方、*now* は語彙自体「起点」を保証しないが、時の流れの上に現時点の状況を位

置くことでそれ以降の状況の「基点」を合図することが可能である。Now は既定情報を導く that、完了相、状況変化を表す表現等を従えることで、現時点の状況を既定情報として積極的に表現しながら主節の命題情報を提出する。基点時を表す now が論理関係の基点、すなわち主節の状況や判断が成立する前提的状況を導くマーカーとして捉えられる場合に、因果関係の解釈が派生するのである。Now that は因果関係を話し手が積極的に認定する表現ではないため、主節の状況や判断は now that 節の状況を受けて必然的・自動的に成立・発生することになる。

- (27) a. Maybe he'll be hating it a little less *now that the record is selling*, but (...). (The Boston Globe, May 7, 1999)
- b. *Now that Apache helicopters are landing in Albania*, NATO and Serbian forces might soon be fighting each other at close range. (The Boston Globe, April 23, 1999)

(27)の主節では、澤田(1998)が「通常のなりゆき」と呼ぶ WILL/MIGHT BE V-ing 形が用いられている。当然の判断を表す助動詞もよく用いられる。

- (28) a. Well, *now that the social call is over*, hadn't we better get down to business? (映画 *A Study in Terror*(1965)の台詞)
- b. *Now that the movie was made*, Morrison had to see it. (TIME, Oct. 5, 1998)

次例は、now that 節と because/since 節の使い分けを端的に示している。

- (29) Now that you're 45, you still need insurance, but because you're older that premium is set to ratchet up again. (FORTUNE, text ed. Aug. 18, 1997)

(29)において、「45歳になった今もまだ保険料が必要となる」ことは社会常

識に鑑みて当然の如く予想できるが、「45 歳になった」ことと「保険の掛け金が再び跳ね上がり始める」こととの関係は道理や成り行きとして捉えられず、主節の命題情報は聞き手の念頭に必然的・自動的に成立しがたい。このように、ある状況を原因・理由として表現しなければ主節の状況の成立・発生を容易に理解しがたい場合には、話し手は because を用いて因果関係を積極的に認定する必要がある。なお、次例の now that 構文の主節には、中右(1994)が「S モダリティー」と呼ぶ話し手の発話時点における評価判断を表明する表現が明示的な形で実現している。

- (30) a. *Now that Osgood has touched this case, he will no doubt draw the preliminary hearing.* (S. Martini, *Prime Witness*)
b. *Now that Abraham Lincoln's bedroom has been despoiled, maybe his spirit can be stirred.* (*NEWSWEEK*, March 10, 1997)

S モダリティーが主節に生じているということは、now that 節と主節の命題間が推論関係に基づき主観的にとり結ばれていることを示している。

3. Now that 節の語用論的特性

Because 節は話し手が主節との関係を因果関係として直接認定する場合に用いられる。一方、now that 構文は現時点で成立している一定の情報に基づいて自動的に成立する状況や導き出される判断を伝える。このことから、now that 構文は現時点の成り行きや事情を自分の知識に照らせば、話し手のみならず聞き手にも、ある状況の成立を推論したり予測することができるという含みをもつことにもなる。次に見るように、聞き手の立場に立ちながら、一定の既定情報をもとに未知の事実を詮索したり、状況証拠を挙げて、ある判断を導く場合にしばしば now that 構文が用いられる。

- (31) Now that *the murders of Nicole Brown Simpson and Ronald Goldman are more than a year old, now that the O. J. Simpson trial has brought the jurors to the edge of exhaustion, and now,*

especially, that *the end of the trial glimmers on the horizon like some incredible mirage*, one might expect the lawyers to simmer down and get on with it. (TIME, Sep. 18, 1995)

(31)は、now that 節の3つの状況を踏まえて推しはかってゆくと、ある予測が聞き手の念頭に成立する可能性を表現している。Now that 節のこうした特性が積極的に活用されるのは、相手に行動を促す場合であろう。

- (32) a. “*Now that our conspiracy has been forged*, let’s go to bed,”
Susan said. (R. Cook, *Terminal*)
b. *Now that you’re a big shot* — why not go back after that? Do
it again. (FORTUNE, Sep. 8, 1997)

いずれも、話し手の一方的意志ではなく予定や事の次第に基づいた勧誘や命令であり、聞き手にも発話行為の必然性が理解できると想定している。

4. まとめ

本研究では、now that 節が表現する具体的な意味関係を実証的に明らかにしながら、その基本的意味・機能を考察した。Now that 節は話題中の現時点の状況を既定情報として提出すること、主節はその状況を基点情報として自動的に成立する状況や判断といった命題情報を担うことを示唆した。また、様々な言語資料をもとに now that 節の談話機能や語用論的含意についても説明を与えた。

注

* 本稿をまとめるにあたり、有益な御助言をいただいた原口庄輔先生、安井泉先生、査読委員の方々、並びに例文に関してお世話になった Rebecca Marck 先生に心から感謝の意を表したい。

1 坪本(1998)は、since に対応する日本語「から」の多義性について論じている。

2 同一文中に主節をとらずに、独立節として生ずる *now that* 節も確認される。

(i) a. “He should be the No. 1 seed off his two big wins. *Especially now that Free House is out.*” (The Boston Globe, May 20, 1999)

b. Heddy: Herman, aren't you afraid to be here alone?

Herman: No, not any more. *Now that I have “Little Herman” here.*

[Pulls out a gun.] (映画 *Herman's Head*(1991)の台詞)

Now that 節の独立用法は手元の資料には5例あるが、主節に相当する先行情報に対して付加的情報を取り立てたり、伝達の中心となり得るほど意味内容が豊かな情報を提示する場合に限られる。

3 Quirk *et al.* (1985)は、*now that* の *that* は任意要素であり形式度が低くなると省略される傾向があると述べる。名詞節化機能をもつ *that* は、それが導く状況が確定済みの情報であることを積極的に表現する標識であり、本稿で見ると論理的前提としての解釈を与える場合がある。形式度の低い多くの談話では、論理的な含意が不必要なために *that* が省略されると仮定する。

4 「情報量の多い意味関係」と「情報量の少ない意味関係」という区分は、分詞節と主節との多様な意味関係を記述した Kortmann(1991)を参考にしている。

参考文献

Alexander, L. G. 1988. *Longman English Grammar*. Longman.

Eastwood, J. 1994. *Oxford Guide to English Grammar*. Oxford Univ. Press.

Kortmann, B. 1991. *Free Adjuncts and Absolutes in English*. Routledge.

Leech, G. 1989. *An A-Z of English Grammar and Usage*. Edward Arnold.

Leech, G. and J. Svartvik. 1994². *A Communicative Grammar of English*. Longman.

森田良行. 1989. 『基礎日本語辞典』 角川書店.

中右実. 1994. 『認知意味論の原理』 大修館書店.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.

澤田治美. 1998. 「WILL BE -ing の語法－意味解釈の原理を求めて－」『英語語法文法研究』第5号, 21-36. 英語語法文法学会.

Traugott, E.C. and E. König. 1991. "The Semantics-Pragmatics of Grammaticalization Revisited." In Traugott, E.C. and B. Heine eds., *Approaches to Grammaticalization*, Vol.1, 189-218. John Benjamins.

坪本篤朗. 1998. 「文連結の形と意味と語用論」中右実(編)『モダリティーと発話行為』日英語比較選書第3巻, 99-193. 研究社出版.